

香美町村岡区八幡神社のモミの樹木診断について

調査者 稲葉広、鳥越茂、宮田和男、山岡秀行
浅田哲也 鬼丸貞英、谷川亘、田中忠
三宅幸貢

調査日 平成 27 年 7 月 12 日（日） 10:00～12:00

場所 兵庫県美方郡香美町村岡区福岡 八幡神社

I. はじめに

兎塚小学校西の高台上に、兎塚（うづか）学びの里八幡山公園があります。公園内には古い時代の古墳や石舞台があり、昭和 50 年（1975）には県史跡に指定されました。福岡八幡神社もそのなかにあり、県指定の環境緑地地域として、八幡神社周辺 4.0ha が指定されています。（図 1）今回調査を行ったモミはその八幡神社境内の参道脇に位置しています。毎年程の頻度で太い枝が折れ、参拝者に落下の危険があります。又、手水舎もあり、樹齢 2 百年前後と思われる御神木に値するような木なので、何とか元気を取り戻して欲しいとの依頼を受け、今回の調査を行いました。

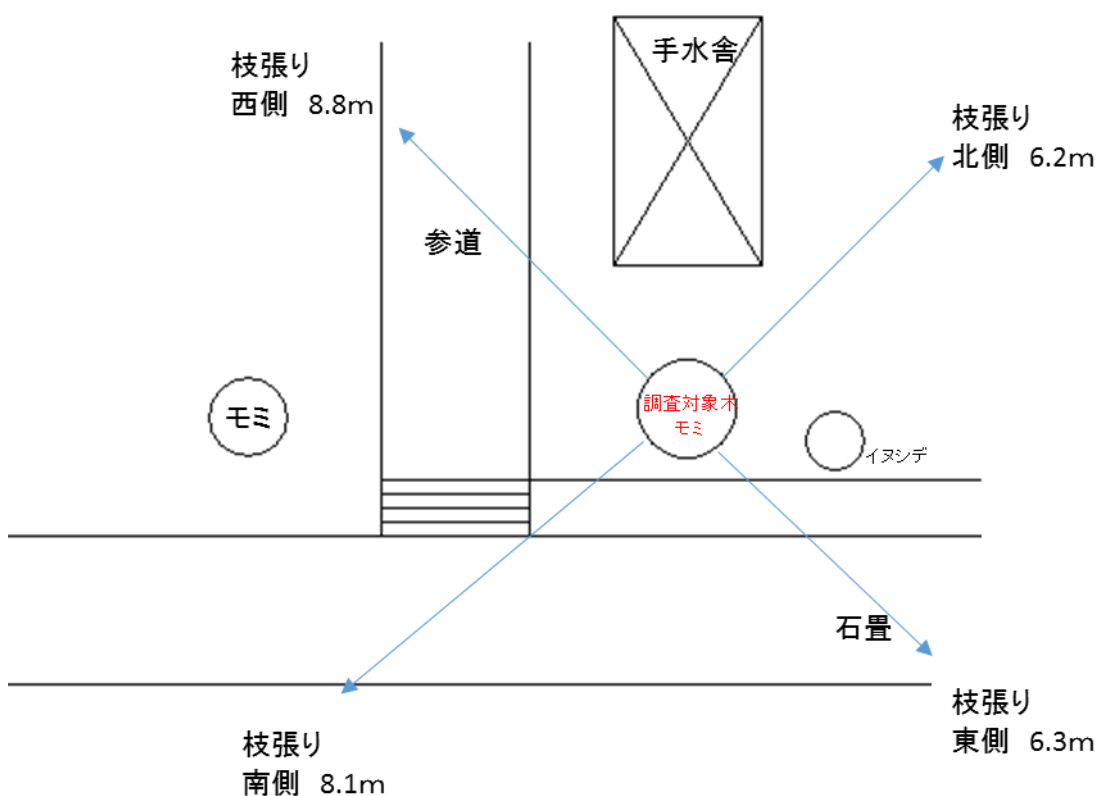


（図 1） 位置図

II. 現状

| | |
|------|---------------------------------|
| 樹種 | モミ |
| 樹齢 | 推定 200 年 |
| 樹高 | 29.0 m （レーザー測量機を用いて計測） |
| 胸高幹周 | 5 m 14 c m |
| 枝張り | 東側 6.3m 西側 8.8m 南側 8.1m 北側 6.2m |

石畳の参道を経て階段を上ったところ、石垣の際にモミの木は生育しています。北西方向に手水舎、南西方向に参道、南東側には石垣があり、北東側にはイヌシデが生育しています。枝張りについては、西、南側にやや発達していて、東、北側は広がっていません。これは東、北側には大きなスギがいるからだと思われる。



(図2) 見取り図

Ⅲ. 樹勢の状況

周辺環境

境内、周辺の根張りの隆起、露出が多く見られました。この根張り（ルートカラー）の隆起、露出は樹木の生育にとって良いことです。しかし、根が深く入ることができない、有効土層が深くないことが推測されます。このため、境内、周辺の樹木は浅い位置に根を這わせ、生活根は浅い位置に分布している

と考えます。モミの近くで行われた参道改修及び手水舎の改修によって根が損傷し、樹勢を弱らせている可能性があります。

根元の状況

南東部に開口空洞が2か所確認できました。そのうち一か所に竹を差し込んで測定したところ、少なくとも垂直方向に1.6mまで空洞があることがわかりました。(写真2) また北西側の地表に出ている根は以前切断している痕も見受けられました。(写真3)

樹形・幹の腐朽

頂部は枯れていて、枯枝は特に南西側に多く確認できました。そのため樹形は崩れており、枝も上部に集中しており、下部にはみうけられませんでした。後生枝は数本確認できました。4～5年前に一度枯枝除去を行ったと聞き、実際に作業を行った方に聞き取りをしたところ、当時、すべての枯枝を除去したわけではなく、ぶら下がっている枯枝を中心に除去をしたとのことでした。そのため、今回確認した枯れ枝は、この4～5年の間で増えたわけではなく、それ以前から枯損していたものも含まれている可能性があります。

また枯損した頂部近くにツガサルノコシカケと思われる子実体(キノコ)を確認することができました。(写真4) このキノコは針葉樹、一部の広葉樹に発生し、幹の心材部分を腐朽させます。

IV. 検討結果

今回調査を行った結果、根元から垂直方向に4mほど空洞がありますが、樹皮が完全に巻いており、強度的には問題ないと思われます。ですから、今すぐに根元から倒伏する可能性は少ないと考えます。樹勢を見るとすぐ枯死するほどの衰退しているようには見受けられません。しかし、今後、徐々に樹勢が衰えていく可能性は否定できません。県内のモミの大木と比較すると、樹齢200年はまだ若いし、腐朽の進み具合がそれほどでもないことから寿命はまだ十分あると思われます。枝の葉量が少なくなっているが、土壌改良により葉量を増やし、樹勢を今よりも回復させることは可能であると考えます。参道には両側にモミがあり、1対でこそ価値があるように感じられました。今後の経費面だけで伐倒するのは非常に惜しいと思います。

また、現況の枯枝をそのまま放置しては参道に落下する危険があるため、参拝者に落下して事故の起こる可能性が非常に高いため、早急に除去することが必要だと思います。以前に枯れ枝除去を行った方に聞き取り調査を行ったところ、作業を行った際、当時存在していた枯れ枝をすべて除去したのではなく、

ぶら下がっている枝などを中心に作業を行ったとのこと、頂端部は当時から折損していて、空洞化し水が溜まっていた事がわかりました。以上のことから今回確認できた枯れ枝は、この4～5年間に発生したものではなく、以前から存在したものも含まれます。また、頂端部に水が溜まっていることから、折損した幹には防御層が形成されており、折損部からの枯れ下がりを防ごうとしていることが推察できます。しかし、前回登られてから時間も経過していますので、実際に枯れ枝を除去する際には、頂部切断部の腐朽を確認する必要があり、その上で幹を切る場所を判定し、切断部に殺菌剤を塗布し、適切に処置することが望まれます。



写真1



写真2 南東側の根元に確認できる開口空洞



写真3 切断痕のある地表の根



写真4 枯損した枝の状況と頂端部近くに確認できるツガサルノコシカケと思われる子実体